川柳マガジンクラブ東京句会　９月

平成22年９月12日（日）　駒込学園にて

参加32名　出席21名　投句11名
甲野竜雄、藤原栄子、関　玉枝、山田こいし、
村田倫也、長谷川康子、ヨモギ、水野絵扇、
佐道　正、高田以呂波、加藤品子、白子しげる、
菊地順風、　星野睦悟朗、松橋帆波、丸山芳夫、
石崎流子、河野桃葉、小倉利江、ELVIS、
植竹団扇
欠席投句
小野六平太、徳島一郎、平松　健、正木三路、
飯島圭子、棚瀬くんじ、白勢朔太郎、伊藤三十六、
萩原ともよ、渥美恵泉、加藤ゆみ子

自由吟句評会

爺ちゃんはタバコ臭いしだっこ嫌　竜雄

そのままという感じ。玉枝

作者　孫が言った言葉通りを句にして見ました。川柳としてはもう少し捻ったり匂わせたりが必要だが、そういう事を全くしない時に皆様の反応がどうかお聞きしてみたかった。

三面の殺人事件胸痛め　栄子

あまりにも既視感があり。具体性がないのも残念過ぎ　帆波

事件も抽象にして「非日常ニュース事件に胸痛め」などでは。利江

作者　ニュースなどで感じたこと、「今日の」「三面の」で迷った。

空きっ腹精神論をまた説かれ　六平太

空きっ腹の意味を聞きたい。戦中戦後の思い出なら判るが、現在では考えにくい。何か満たされないもののことなのだろうか。倫也

空きっ腹の意味が伝わらなかった。品子

空きっ腹が判らない。「また」がどこへ掛かるのか判らない。利江

空きっ腹は精神的なことかしら。失敗した理由は判っているのに、又言われたというような気持ちか。流子

意味よりも前に伝わってくるが、精神論とは「べき論」であって、役に立つかどうか判らない「べき論」を並べてすきっ腹という言葉が出たのでは。意味ではなくてイメージでは。ELVIS

エアコンが身体に悪いと考えている高齢者が４割に上るという。時代の変化に対応できない過去の考え方を扱っているのでは。

作者コメントはありませんでした。

週刊誌買う気もなくて斜め読み　玉枝

そのままという感じですが。帆波

作者　新聞の広告を見て、ちょっと読んでみようとコンビにまで出掛けて週刊誌を読んで来ることがあります。

おころりよ背負った子供の顔が無い　こいし

判らなかった。マザーグースの世界かしら。怖い印象。　康子

政治的なことを詠んでいるのか。判らなかった。品子

育った子どもが親離れをし、縁遠くなったような事かと思いました。玉枝

夢に出てきた景色なのかしら。絵扇

政治的な事柄として、子供の世代にツケを残す大人が、子供の顔を見ていないという意味か。帆波

三党連立政権のことかも知れない。芳夫

マザーグースの世界。子殺しなど今の時代のことか。不気味な感じがする句。正

作者　三月か八月に出せばよかったと思う。戦争の悲惨さを訴えたかった。東京大空襲の際に避難してきた親子の話。背負っていた子供の顔が無くなっていたという悲惨な話。

靴ひもを結び直すが素寒貧　一郎

意味が判りませんでした。こいし

深い意味があると思うのだが、判らなかった。正

「結び直すが」と理由付けになっている。私なら「結び直せり」と理由付けをしない修辞にする。ELVIS

作者　定年退職後のある日

古ぼけた写真に歴史こぼれでる　倫也

ある程度歳を取りますと、古ぼけた写真を見ては子供たちの幼い頃を思い出したりしています。桃葉

作者　写真を整理していたら、長兄の昭和10年代の写真を見つけた。裏に先生と五、六名の名前が書かれていた。兄はどんな先生に習っていたのだろうか。そんなことを思い巡らせました。

虫の音も抜け毛も秋を告げて居り　康子

「抜け毛」としたのが面白い。猛暑でも秋は来ているのです。以呂波

作者　あまりに暑いのでこういう句になりました。夜の虫の音。抜け毛。こんなに暑くても秋なのです。

今日も夏茹だる日止まぬ明日も夏　ヨモギ

上五、下五の表現が面白い。全体を受けての下五。より暑さを感じさせます。帆波

作者　今年の夏は例年にも増しての猛暑。夏が苦手の私には特に厳しい夏でした。

ご本人よりも巾着ものを言い　健

巾着とはお金を入れるものだと思うので、お金がモノを言いだと思った。品子

巾着とは、巾着袋。それが何故モノを言うのか。絵扇

巾着という言葉を持ってきた意味が判らなかった。以呂波

巾着にしなくても財布でもよかったのでは。巾着では古いのでは。利江

本人はどうでもよくて、その人の持っているお金に意味

があるということか、巾着という言葉を使ったことで高齢者を表現しているのか。竜雄
時事作品として考えると、小沢一郎氏の腰巾着という意味や、巾着で高齢者を象徴するととると所在不明の高齢者の事なのだろうか。帆波
作者コメントはございませんでした。

ムラサキで埋める約束した柩　絵扇

青いバラを作る研究の話を聞いたことがあるが、その時に青い色は不吉な色ということも聞いた。そういう事を連想させる作品では。順風
ムラサキが好きな人なのかどうか。以呂波
ムラサキが何かは、棺に入っている人と弔う側の人しか共有できない。ムラサキは派生する意味を沢山持っている言葉。但しこの場合「醤油」は連想されない。難解な作品を読んで行く参考になる。帆波
丸山明宏氏の事かと思った。ムラサキは同性愛を示す色でもある。竜雄
作者　花一杯と考えたが、紫の花が好きな人なので、ムラサキとした。カタカナにしたのは花の連想まで広げたかったから。

またひとり戦友が消えてく秋彼岸　三路

友達が消えて行くことを寂しく感じていると思いました。
栄子
「消えてく」という「い抜き」表現はどうなのか。康子
「せんゆう」と読まず「とも」と読めば字余りにならないですね。玉枝
戦争と捉えなくてもいい句だと思う。ただ、「戦友」と書いて「とも」と読むことは普通にいいのかどうか。睦悟朗
作者　毎年の事ですが、お盆が過ぎる頃になるとひとり、ふたりと訃報が届きます。
戦争を実体験として生きてこられた方なので「戦友」は「とも」でしょう。仕事上の「戦友」なら「せんゆう」と読むほうが自然では。戦前、戦中、戦後の時代の中で「戦友」「とも」という読み方は数多く使われて来た。「い抜き」表現は、文法的に論じる前に口語表現として捉えてみたい。関西に比べて関東では「ら抜き」と比較して抵抗なく使われている印象があります。この作品では、心のつぶやきとしての口語表現の持つ効果として捉えてみたい。帆波

待ち合わせケータイ耳に探し合う　正

先日人と待ち合わせた時に、ケータイを片手に互いに探し合った。そのことがあったのでこの句の意味が良く判ります。倫也
作者　見たとおりの句です。最近は待ち合わせの風景も変わってきました。昔はどこのどの場所と約束していたのが、今はどこの出口程度で、あとはケータイを使って連絡を取り合うようになりました。

ミステリー所在不明の高齢者　圭子

今、所在不明の高齢者が話題になっているので実感としていただきました。栄子
ズバリ過ぎです。新聞の見出しみたいです。正
作者　本当に現代社会のミステリーです。人間が消える、蒸発したとも言いますが、人間が気化して雲散霧消するわけが無い。ミイラ化した親「即身仏になったわけではない」の死を伏せて年金受給などは言語道断。

新聞もカタカナだらけ辞書が杖　以呂波

下五で表現していると思う。暗喩である。「辞書は杖」とした方がいいのでは。「が」では解説になってしまう。ELVIS
作者　辞書がないと新聞も読めなくなってしまった。始めは新聞も日本語の意味を書いているが、二度三度と使われるようになると意味が判らなくなる。「が」については「辞書が無いと読めない」という気持ちを込めてあります。

無事であれ祈る月夜の救急車　くんじ

何故月夜かが判らなかったが、自分は救急車のサイレンを聞いてもまた事故があったかくらいにしか思わなかったが、無事であれという、この方の心の優しさが凄いと思った。利江
仕事で引越しするたびに何故か消防署の近くになるので句意は判るが、何故月夜なのだろう。睦悟朗
作者コメントはございませんでした。
連日の猛暑。今年は特に雨が降らないので月夜ではないか。無事であれは、他人への思いやりと同時に、熱中症等に対するご自身への戒めかも知れない。帆波

豪快な笑いで下がる女っぷり　品子

会社で美容にお金をかけている人がいて、たまたまその方が大声で笑ったことがあって、そのことを思い出しました。
絵扇
豪快な笑いで下がるのだろうか。流子
判り難かった。選挙のことか。女っぷりに重きを置いているのか。玉枝
男っぷり程女っぷりは使わないが、誉め言葉のはず。だから下がるという使い方はあまりしない。「女っぷり」は六音。下六にしてまで使う表現だろうか。竜雄
作者　テレビで、女優さんらが物を食べる時「美味しい」と言わず「うまい」という言葉を使われるが、それに違和感を感じていて、そこから詠んでみました。お話を聞いて、確かに女っぷりだと誉め言葉だなと思いました。

灰皿を割った三度目の禁煙　朔太郎

煙草を止めるのは大変だと聞く。凄く禁煙に苦労しているのだなと思いました。玉枝
三度目とは。二度あることは三度あるから、また禁煙できなかったという事か、増税に絡めた時事的なことなのか。
帆波
作者コメントはございませんでした。

絆から忍に変わって一つ屋根　しげる

最近の家庭内の事件のニュースを見て、絆から忍耐に変わってきている不思議なところを詠んでいる。以呂波
「誤解して結婚理解して離婚」という句を思い出した。この句は「忍」なのでまだ我慢が続いているのでしょう。
倫也
お話を聞いて「忍耐」なのかと判りました。絵扇

作者　朝のテレビで、夫婦のイメージを漢字一文字で表すというのがあり、「絆」は若い夫婦「忍」は熟年夫婦だった。

猛暑バテいや体重は増えている　順風

猛暑でバテているのだけれど水分を取るので体重は増えている。同じような句を詠もうとしたがうまくいかなかったので、上手いと思います。絵扇

体重を測っていると、この暑い中でもそんなに変わらない。実感句。玉枝

バテでいるのに体重が増えているのが判らなかった。帆波

今は、夏痩せより夏太りなのだそうです。利江

気分的には疲れ気味なのだが、体重はあまり変わっていないという事を表現した。作者

居酒屋の隅で言葉のゴミ拾う　三十六

居酒屋で他の人が話しているのを聞いていると、川柳の種に出会うことが沢山ある。竜雄

居酒屋は本音の行き交うところなので、下五の表現も面白い。流子

句意はよく判るが、それは「ゴミ」なのだろうか。こいし

「ゴミ」というのは否定的なもので、それを拾うという意味をお聞きしたい。倫也

「ゴミ」はスターダスト。詰まらないものではないと思う。団扇

作者　居酒屋は言葉の宝庫です。耳を澄ますとたくさんの本音が飛び交い、句材に困らない。忘れないうちに急いで書き留める。何しろこちらも酔っているので。

ソフトクリーム舐める溶けるの用意ドン　団扇

面白い。いわれてみればその通り。着眼点が良い。正

面白い。小さな子にソフトクリームをねだられて、早く食べないと溶けちゃうよという風景。絵扇

溶けるのが早いか、舐めるのが早いかヨーイドンという意味。芳夫

作者　ソフトクリームはカチカチではいけない。特に今年は猛暑なので。

猛暑です今日も予報士歯切れよい　睦悟朗

今年ほど暑い暑いといって過ごした夏はない。また予報士から猛暑ですと聞かされているので実感です。栄子

予報士は当らない時もあるが、絶対降らないというのもあるので、自信を持って話しているのだろう。玉枝

歯切れよいというのがどうかと思ったが、逆に予報士の状況を揶揄したのかなと思う。芳夫

作者　さいたま市は8月12日に降ったきりで雨が降っていない。週間予報も全部晴れ。テレビを見ていると歯切れがいいなと感じました。

支持率というマスコミの塗り絵たち　帆波

上手いです。団扇

今のマスコミというのは、しょっちゅう世論調査をしている。調査のし過ぎでは。「塗り絵たち」と客観的に見ているところも良い。芳夫

塗り絵という表現が良い。バランスが良い比喩、今のマスコミの問題も穿っている。ELVIS

マスコミのアンケートを塗り絵としたのだろう。マスコミのアンケートには意図が隠されていると感じたのかどうか。倫也

作者　民主党代表選に対するニュースから、日本のマスコミの世論調査と海外メディアの世論調査の数字が真逆だったのを見て不思議だと思ったことがきっかけ。

「猛暑日をなくそう党」を立ち上げる　芳夫

猛暑についての句が六句あった。それを外して選ぼうとしたが、これは面白いと思った。利江

面白い。超党派でないと作れないかな。こいし

面白くて笑います。立ち上がったら私も入りたいです。康子

句箋に「」を書くと一字に数えたり、落す人がいるのでご注意。竜雄

作者　色々小さな政党が沢山できていますが、党名が抽象的で何をしたいのか判らない。そこで「猛暑日をなくそう党」としてみました。

八日目を生きても蝉は鳴いている　流子

蝉は七年地中にいて、地上に出て七日で死ぬといわれる。八日目というと、仲間はみな死んでいるのに、自分だけもう一日生きて鳴いている。この孤独さがいいと思いました。帆波

八日目が高齢化社会にもつながっているのかなと思いました。順風

生きる姿勢。前向きなものを感じました。しげる

作者　一人生き残っている気持ちはどんなだろうと思った。ご高齢の方が生き過ぎたと話されるのを聞いて、人間に照らし合わせても面白いかと思った。

スキだったこともやんわり忘れてる　ともよ

やんわりという忘れ方があるのかと思いつつ、面白いと思いました。正

いい句だと重います。毎日見ている人を、この人を好きだったこともあったんだなぁ・・と思いながら。流子

秋風が吹くころ、こういうことも忘れているのかなと思いました。順風

夫婦も長くやっているとこういうこともありますが、やんわりとは、この方はお優しい人なのでしょう。康子

カタカナでの表現の訳を聞きたい。芳夫

やんわりがいいなと思ったのだが、好きをカタカナで表す事でどのような効果を狙ったのかお聞きしたい。睦悟朗

作者コメントはございませんでした。

「スキ」は若い頃のイメージでは。ホットな感情も年を重ねるにつれて、温かさまでは思い出せなくなっていく。ある程度年齢を重ねた時に振り返った青春時代の思い出か。帆波

仲間よと心の疵にふれてくる　桃葉

若気の至りを本人は公開しているのに友人の方が意に介さず話題にしてくる。面白い風景。睦悟朗

人を慰めながら本音を聞いている人間の厭らしさ。川柳

として面白い。こいし
人の気持ちも知らないで余計なお世話をやく。心の疵にふれてくるで、感情を良く表している。倫也
人にはそれぞれの事情、人生があるが、「うちも同じよ」というのはお節介であったり、同族意識の押し付けであったりする。それによって心が傷つく事が多い。帆波
作者　人間も古くなっていると色々と傷を持っています。そんな昔の傷に触れられると嫌な事があります。

ゴキブリも妻もヨタヨタしてる夏　恵泉

ゴキブリと妻は宿敵です。どちらも夏バテですれ違っても気が付かないのだろう。団扇
面白い。ゴキブリとは暖かい地方の虫なのだが、猛暑でだんだん北のほうに住むようになった。その虫が暑過ぎてヨタヨタしている。竜雄
ゴキブリも妻も本当は強いのに。面白いです。利江
今年の猛暑を非常に良く表しています。品子
作者コメントはございませんでした。

非国民にされる地デジに乗らないと　利江

今の時代に非国民が出てくるとは、戦前に戻らないといけないのかな、面白いです。こいし
非国民で、戦時中の供出を思い浮かべた。いまの日本国民全部を地デジにしようというのが重なる。桃葉
非国民が効いている。品子
ＮＨＫの朝ドラや大河ドラマを見ていないと、非国民扱いされているようで、その気持ちは面白い捉え方だと思った。芳夫
大げさなような。見なければ済む話だと思うが。正
一つの方針に国民全員が向わなければ人間ではないという考え方が嫌です。地デジにたいしてどうして反対運動をしないのだろう。アメリカだって遅れているのに。地デジ反対党でも作りたい気分だ。竜雄
作者　非国民はオーバーかと思ったが、アナログのままだと取り残される気がして。

正論を今も信じる古い傷　ELVIS

時々、あれは自分が正しかったよな、というサラリーマン時代の思い出があるので共感しました。睦悟朗
昔を振り返って、自分の正論を悔しがっているのが表現されている。以呂波
時代が変わっても、正しいという信念は変わっていないという心情。しげる
私の句と同じような考えをお持ちの方がいると思っていただきました。桃葉
皆一つや二つこのようなことがある。悔やんでいたり納得していたり。今も信じていると詠み上げたところが素敵です。竜雄
作者　かもめ社という句会に投稿した作品です。

本音から二センチずらす推薦書　ゆみ子

推薦書というのは学校の書類。二センチずらすという微妙なところがいい。団扇
二センチが微妙でよい。推薦するのだから悪くは書かないのだろうが、ちょっと本音とは違うというところ。正
推薦書なので、嫌な事も書かなければならないけれど、二センチというところに、愛というか心情を感じた。流子
二センチというところがいい。推薦する以上は何とかしてやりたいが、嘘も書けないし、というところ。睦悟朗
推薦書は良いことを書きますが、本音とはちょっとずらしてというところがいい。康子
二センチという言葉を見つけたところが良い。しげる
二センチずらすというのが良い。推薦書と下五に置くことで句意を限定しているのが良い。川柳は省略の文学といわれているが、それが絶対ではないとも思う。推薦書がなくても文芸になるが、この限定がいいと思う。ELVIS
二センチというのは当てはまると思うが、世の中にはもっといい加減な推薦書もあると思う。品子
中七まではいいと思ったが、推薦書を出版物のものかと思った。内申書なら判った。芳夫
作者　就職や進学の生徒の、推薦書を書くシーズンになりました。少し脚色して褒め言葉を探すのですが、実態とあまりかけ離れてもいけないし、ここが苦労のしどころです。

課題吟

「白い」表現自由　但し、他の色との組合わせ不可。

植竹団扇選

「佳作」

年金は貰っているぜ白い骨　くんじ
白桃を割って出て来たのは詐欺師　こいし
バツ二まで白で構わぬウエディング　絵扇
白い粉うっかり貰い悔い残り　栄子
勝てば潔白そうはいかない選挙戦　絵扇
盛り塩が手招きしてる神楽坂　以呂波
無罪判決彼女に白い歯がこぼれ　玉枝
面白いよという話ほどつまらない　正
アリバイは人に言えないデート中　正
白タクのなかリストラの友と逢う　三路

「秀作」

白鷺城世界遺産にした左官　睦悟朗
サボってるよう真っ白なユニフォーム　芳夫
洗剤の幟が増える大相撲　ELVIS

「特選」

そうめんで　・　を打つ熱帯夜　品子

「・」という表現に驚いて選出しました。団扇
「・」はピリオドと読みます。作者

「白い」表現自由　但し、他の色との組合わせ不可。

河野桃葉選

「佳作」

降参のタオルは白が潔い　団扇
年金は貰っているぜ白い骨　くんじ
その白は嘘だと思うコマーシャル　帆波
勝てば潔白そうはいかない選挙戦　絵扇
あこがれの白衣に抱かれ検査室　竜雄
白無垢が三人父の泣き上戸　三十六
白紙には戻せないけどやり直す　しげる
白い粉うっかり貰い悔い残り　栄子
湧き水の豆腐屋今も元気かな　流子
転落の始めは白紙委任状　三十六

「秀作」

ホワイトデー僕にはとんと縁がない　恵泉
白鷺城世界遺産にした左官　睦悟朗
無罪判決彼女に白い歯がこぼれ　玉枝

「特選」

純白の吾子へ未来の夢をかけ　玉枝

五分間吟「裏」加藤品子選

「佳作」

野良猫が裏口から入ってくる　流子
信じてた話に怖い裏が見え　玉枝
人生の哀感匂う裏通り　倫也
裏とじの中に秘密をかくし持つ　桃葉
出戻りの娘裏口から入る　流子
CDは予想と違い裏が売れ　順風
真っ白の裏は真っ黒かも知れぬ　こいし
儲かるはいつでも裏のある話　睦悟朗
路地裏の風鈴江戸の風が吹く　正
裏道を歩き人情味見する　倫也

「秀作」

何気なく見せる背広の裏の贅　利江
裏の裏読んで素直な人に負け　しげる
御近所に話がぬける裏長屋　玉枝

「特選」

華やかなウラは壮絶夜の蝶　以呂波
カーナビに教えてあげる裏の道　芳夫
居酒屋の裏で大志が皿洗う　利江

以上　まとめ　松橋帆波